
クリスマス前倒しプレゼント。

無駄の塊りな哲学者

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

クリスマス前倒しプレゼント。

【Nコード】

N93980

【作者名】

無駄の塊りな哲学者

【あらすじ】

題名とはまるっきり違う内容と言う詐偽。

（前書き）

無駄の塊りな哲学者より。読者さまへ愛を込めて

突然だが、我々人間は今の所必ず死ぬ（未来ではどうなるか知らないが）。

又、死は人間だけではなく生きとし生けるモノ全てに訪れる。

何処かの誰かは死についてこう言った。

「死を知ることがなければ、人間はこれほど楽なことはない」と。

確かにその通りだ。

我々は死と云う者を知ることがなければ、

どこぞの皇帝みたく不老不死などと言う陳腐なものを求めず、

科学を発達させ不老長寿を望みもしなかったであろう。

そう。我々人間は死と云う者を知ってしまったために死を恐怖と捉えてしまった。

少なくとも僕はそう感じている。

だけど僕はこつも考える。

死とは我々人間が何処から自宅へと帰るように、普通に当たり前のようにくるものだと思う。

何故か？

よく我々人間は「人生を道」と例えている。

そこから発展させて、「どんな道を歩んでも、必ず終着点へは辿り着く」

と、人生と死の関係を例えてみたのだ。

簡単に言えば、「どんな道を行っても遅かれ早かれ家には着く」

と、云う事だ。

だから死と云う者を恐れるのは止めてくれ。

それだけで脳の使用できる領域の半分ぐらいを無駄に使っている。

死と云う者を受け入れて欲しい。

だからといって「自殺OK」でもない。

僕に言わせれば、自殺は道から逃げているようなものだから。

たまには逃げるのも悪くはない。

だって、「死とは永遠の安息日」だから。

だけど死に逃げるのはどうかと思う。

諦めるには、まだはやいと思う。

最後に、この短編を読んで生きる希望とやらが出来たのなら幸いだ。

身内の死を受け入れる事が出来たら幸いだ。

死とは、必ず来ると割り切るしかない者なのだから。

F i n .

（後書き）

文字だけで666という何かしらの作為を感じるこの作品。

いかがでしたか？

感想お待ちしております。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9398o/>

クリスマス前倒しプレゼント。

2010年11月15日22時52分発行